

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
レクリエーションアクティビティ I Recreation Activity		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(レクリエーションインストラクター スポーツプログラマー ジュニアスポーツ指導員)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
レクリエーションインストラクター資格取得希望者は、「レクリエーションアクティビティ II」「レクリエーション理論」を履修すること				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
菅野 清子	本館1階非常勤講師室	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
「レクリエーションアクティビティ I」では、レクリエーションの楽しさを体験し、支援者としてのレクリエーション技術の基礎を学習します。				
授業の目標				
①レクリエーションの意義をしっかりと理解し、その必要性について、説明できるようにする。 ②アイスブレイキングの手法を学び、人前で実践できるようにする。 ③目的や対象に合わせたレクリエーション活動の知識や、技術の方法を身につけることができるようにする。 ④レクリエーションを通して、コミュニケーション力を身につけることができるようにする。 ⑤主体者に対する、心遣いとユーモアのある表現力が出来るようになる。				
授業の方法				
講義と演習を通して、レクリエーション支援者として必要なコミュニケーションワークやグループワークを多く取り入れて学習する。特に、現場に対応したレクリエーション種目や活動などの体験をしながら、実技指導の方法など、ロールプレイを取り入れ、常に実習をすることで、レベルアップしていきたい。また、毎回ふりかえりシートを配布し、授業で感じたことや、学んだこと、気づいたことなどを記入し、自分自身の思考力を伸ばして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
レクリエーション支援者としての、ホスピタリティを持った援助や技術を習得し、対象者とのコミュニケーション力を発揮することができる。人前に立って、レクリエーションを提供することの喜びを感じるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・授業の進め方・到達目標・評価方法など レクリエーションインストラクターの役割について			
第2回目	コミュニケーションワーク ① アイスブレイキングの体験			
第3回目	コミュニケーションワーク ② アイスブレイキングの意義と基本技術			
第4回目	レクリエーション活動の提供スキル① 同時発声 同時動作の理解			
第5回目	レクリエーション活動の提供スキル② 同時発声 同時動作の習得			
第6回目	音楽を使ったアクティビティ 音楽レクリエーション① 歌 体操			

第7回目	音楽を使ったアクティビティ 音楽レクリエーション② ダンス
第8回目	道具を使ったアクティビティ ニュースポーツ
第9回目	集団を介したアクティビティ 身体を使ったゲーム
第10回目	ホスピタリティの体験 必要性
第11回目	クラフト作り 手作りのアクティビティ 目的に合わせたレクリエーションワーク
第12回目	対象に合わせたレクリエーションワーク
第13回目	レクリエーションプログラムの方法
第14回目	レクリエーションアクティビティの提供 実技指導
第15回目	ふりかえり

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	常にノートを取り、授業に集中している。意見を求めた際には、しっかりと意見を述べる事が出来る。グループワークでは、積極的に発言をしたり、コミュニケーションをとっている。
レポート	20%	主に、毎回のリアクションペーパーに書かれている内容を評価
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	与えられたアクティビティを、一人で、みんなの前で、実技指導を行う
その他	10%	制作物などの成果

教科書と参考図書

教科書は使用しない 参考書として、レクリエーションガイドブック29「楽しいアイスブレイキングゲーム集」
 公益財団法人 日本レクリエーション協会 他 随時紹介

履修上の留意点・ルール

目的意識を持って授業に臨むこと。実技が多いため、服装や身だしなみに注意すること。ガイダンスで詳しく説明する。